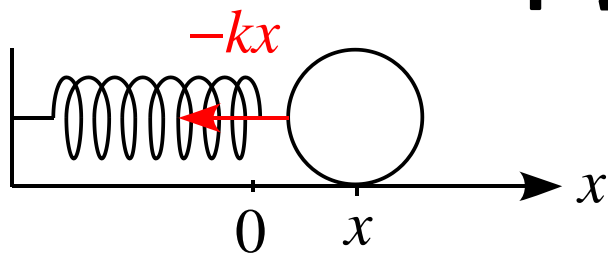


2016講義ノート  
物理学基礎 (力学)  
工学部・機械工学科

# 単振動～まとめ



運動方程式は

$$ma = -kx$$

$$m \frac{d^2 x}{dt^2} = -kx$$

$$\frac{d^2 x}{dt^2} = -\frac{k}{m} x$$

微分方程式  
を解くと

$$x(t) = A \sin(\omega t + \delta), \omega^2 = \frac{k}{m}$$

Aと $\delta$ は初期条件が決める

となる。

$\omega$ について

$$v = \frac{dx}{dt} = A\omega \cos(\omega t + \delta)$$

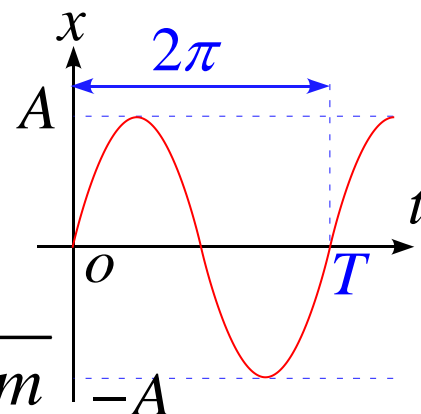
$$a = \frac{d^2 x}{dt^2} = -A\omega^2 \sin(\omega t + \delta)$$

$$\frac{d^2 x}{dt^2} = -\frac{k}{m} A \sin(\omega t + \delta)$$

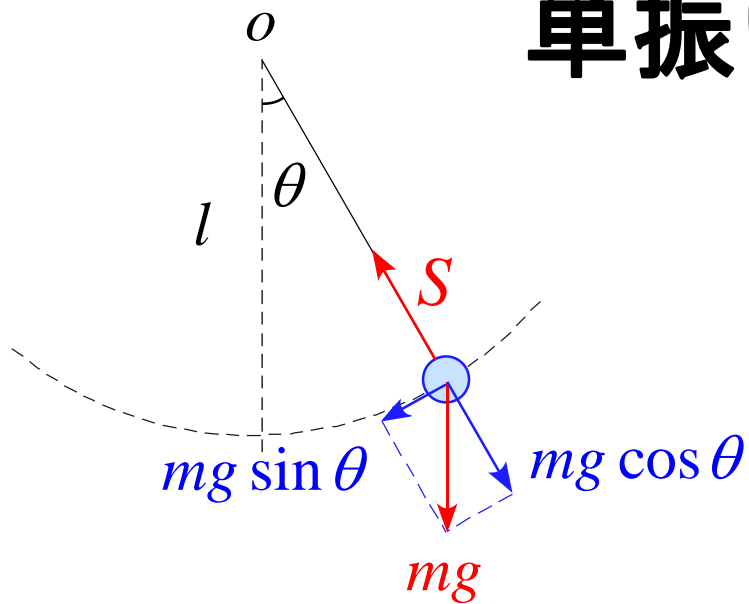
周期  $T$  について

$$\omega T = 2\pi$$

$$T = \frac{2\pi}{\omega} = 2\pi \sqrt{\frac{m}{k}}$$



# 単振り子～まとめ



一般的な極座標表示 (加速度)

$$a_r = \left[ \frac{d^2 r}{dt^2} - r \left( \frac{d\theta}{dt} \right)^2 \right]$$

$$a_\theta = \left[ 2 \frac{dr}{dt} \frac{d\theta}{dt} + r \frac{d^2 \theta}{dt^2} \right]$$

運動方程式

$$ma_r = mg \cos \theta - S$$

$$ma_\theta = -mg \sin \theta$$

$a_r, a_\theta$   
に代入



$$m \left[ \frac{d^2 r}{dt^2} - r \left( \frac{d\theta}{dt} \right)^2 \right] = mg \cos \theta - S$$

$$m \left[ 2 \frac{dr}{dt} \frac{d\theta}{dt} + r \frac{d^2 \theta}{dt^2} \right] = -mg \sin \theta$$

# 単振り子～まとめ

糸の長さは  $r = l$  (一定) なので

$$\frac{dr}{dt} = 0$$

従って、

$$-ml \left( \frac{d\theta}{dt} \right)^2 = mg \cos \theta - S$$

$$ml \frac{d^2\theta}{dt^2} = -mg \sin \theta$$

となる。

2式目は

$$\frac{d^2\theta}{dt^2} = -\frac{g}{l} \sin \theta$$

と変形できる。

振れ角  $\theta$  が十分に小さければ

$$\sin \theta \simeq \theta$$

と近似ができ、

$$\frac{d^2\theta}{dt^2} = -\frac{g}{l} \theta$$

微分方程式  
を解くと



$$\theta(t) = A \sin(\omega t + \delta), \omega^2 = \frac{g}{l}$$

$A$  と  $\delta$  は初期条件が決める

となる。

# 単振り子～まとめ

$\omega$  について

$$\frac{d\theta}{dt} = A\omega \cos(\omega t + \delta)$$

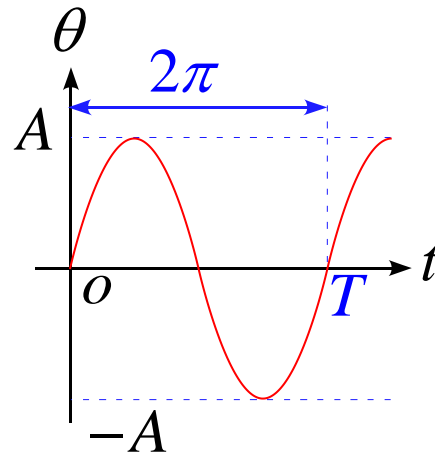
$$\frac{d^2\theta}{dt^2} = -A\omega^2 \sin(\omega t + \delta)$$

$$\frac{d^2\theta}{dt^2} = -\frac{g}{l}A \sin(\omega t + \delta)$$

周期  $T$  について

$$\omega T = 2\pi$$

$$T = \frac{2\pi}{\omega} = 2\pi \sqrt{\frac{l}{g}}$$



# 円運動～等速円運動

半径  $r_0$  角速度  $\frac{d\theta}{dt} = \omega$  (一定) の等速円運動

ある時刻  $t$  での位置は

$t = 0$  で  $(x, y) = (r_0, 0)$  とすると

$$x(t) = r_0 \cos \omega t$$

$$y(t) = r_0 \sin \omega t$$

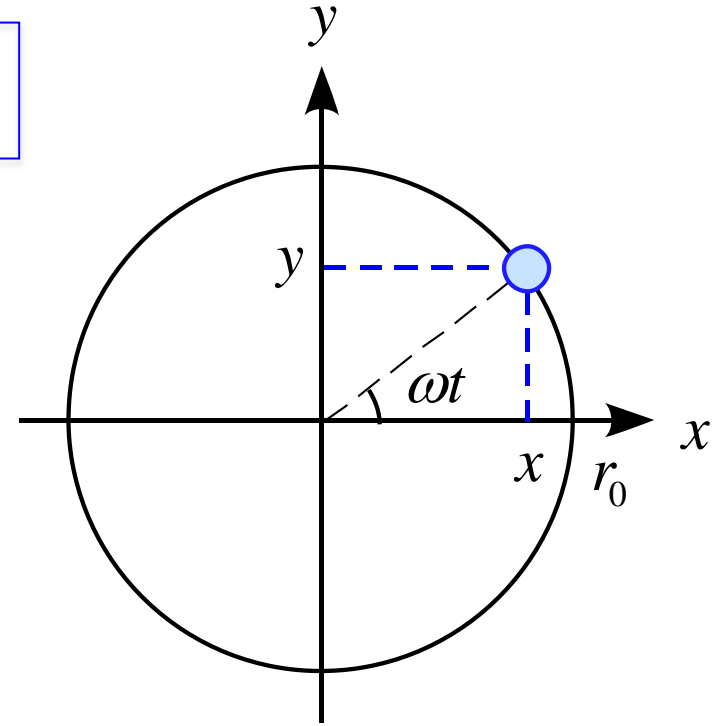
と表される。

速度は

$$v_x = \frac{d}{dt} [r_0 \cos \omega t] = -r_0 \omega \sin \omega t$$

$$v_y = \frac{d}{dt} [r_0 \sin \omega t] = r_0 \omega \cos \omega t$$

と表される。

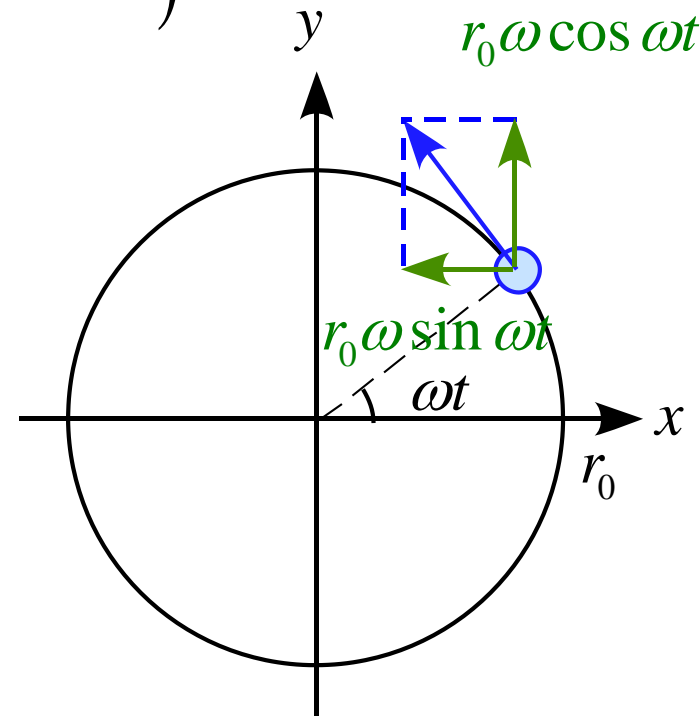


# 円運動～等速円運動

従って、

$$\begin{aligned}v &= \sqrt{v_x^2 + v_y^2} = \sqrt{(-r_0 \omega \sin \omega t)^2 + (r_0 \omega \cos \omega t)^2} \\&= \sqrt{r_0^2 \omega^2 \sin^2 \omega t + r_0^2 \omega^2 \cos^2 \omega t} \\&= \sqrt{r_0^2 \omega^2 (\sin^2 \omega t + \cos^2 \omega t)} \\&= \sqrt{r_0^2 \omega^2} \\&= r_0 \omega\end{aligned}$$

となる。



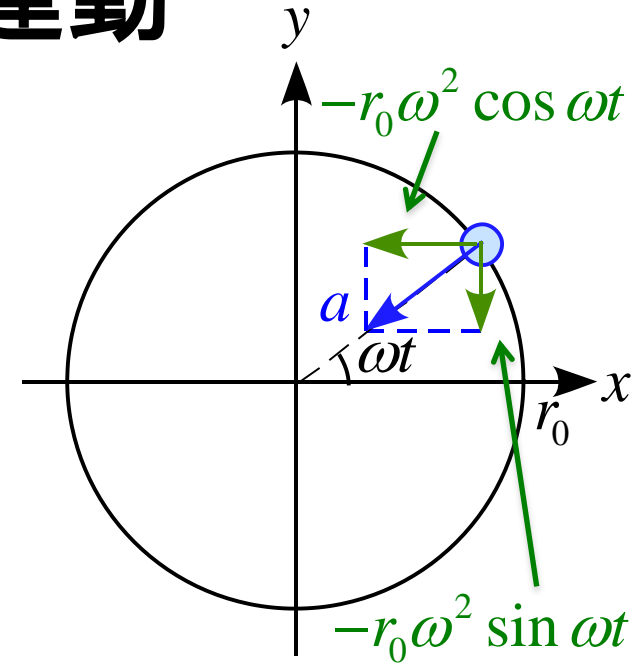
# 円運動～等速円運動

加速度は

$$a_x = \frac{d}{dt}[-r_0 \omega \sin \omega t] = -r_0 \omega^2 \cos \omega t$$

$$a_y = \frac{d}{dt}[r_0 \omega \cos \omega t] = -r_0 \omega^2 \sin \omega t$$

と表される。



$$\begin{aligned} a &= \sqrt{a_x^2 + a_y^2} = \sqrt{(-r_0 \omega^2 \cos \omega t)^2 + (-r_0 \omega^2 \sin \omega t)^2} \\ &= \sqrt{r_0^2 \omega^4 \cos^2 \omega t + r_0^2 \omega^4 \sin^2 \omega t} \\ &= \sqrt{r_0^2 \omega^4 (\cos^2 \omega t + \sin^2 \omega t)} \\ &= \sqrt{r_0^2 \omega^4} = r_0 \omega^2 \end{aligned}$$

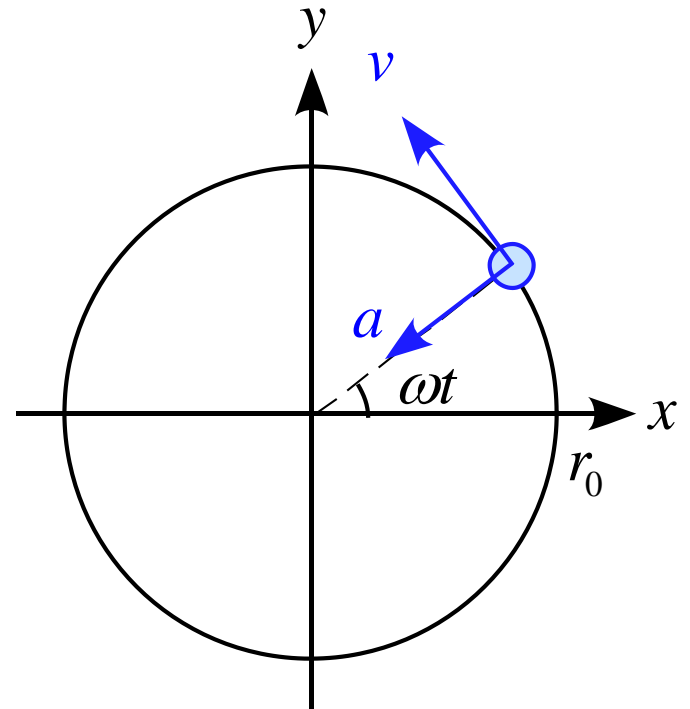
となる。

# 円運動～等速円運動

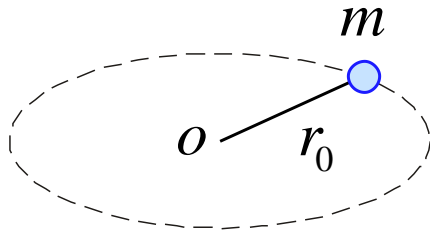
等速円運動  $\frac{d\theta}{dt} = \omega$  (一定)

$$v = r_0 \omega$$

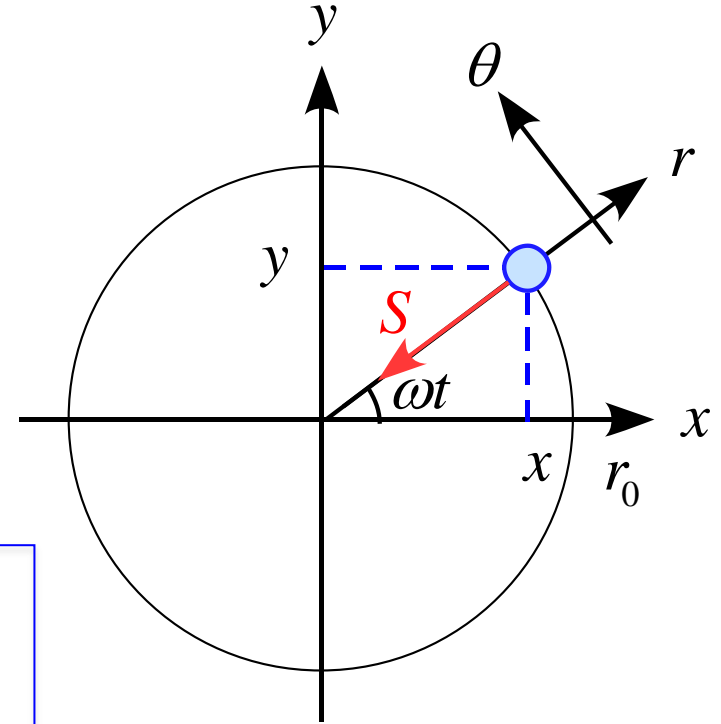
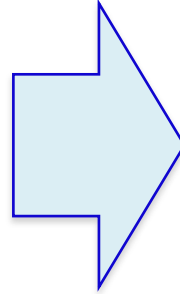
$$a = r_0 \omega^2 = v\omega = \frac{v^2}{r_0}$$



# 円運動～運動方程式



真上から見る



一般的な極座標表示 (加速度)

$$a_r = \left[ \frac{d^2 r}{dt^2} - r \left( \frac{d\theta}{dt} \right)^2 \right]$$

$$a_\theta = \left[ 2 \frac{dr}{dt} \frac{d\theta}{dt} + r \frac{d^2 \theta}{dt^2} \right]$$

運動方程式

$$ma_r = -S$$

$$ma_\theta = 0$$



$a_r, a_\theta$   
に代入

$$m \left[ \frac{d^2 r}{dt^2} - r \left( \frac{d\theta}{dt} \right)^2 \right] = -S$$

$$m \left[ 2 \frac{dr}{dt} \frac{d\theta}{dt} + r \frac{d^2 \theta}{dt^2} \right] = 0$$

# 円運動～運動方程式

糸の長さは  $r = r_0$  (一定) なので  $\frac{dr}{dt} = 0$

$$mr_0 \left( \frac{d\theta}{dt} \right)^2 = S$$

$$mr_0 \frac{d^2\theta}{dt^2} = 0$$

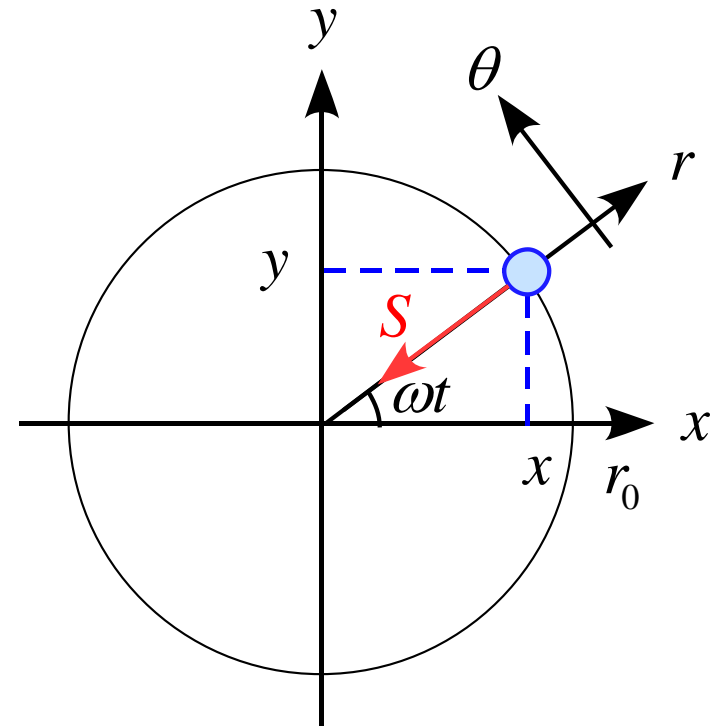
角速度  $\frac{d\theta}{dt} = \omega$  (一定) の等速円運動

とすると、

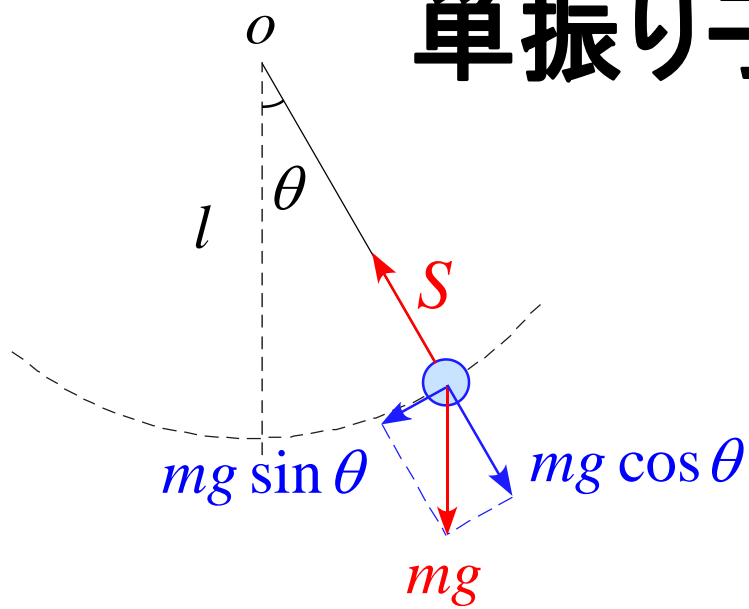
$$mr_0 \omega^2 = S$$

$$ma = S$$

中心方向に加速度があると考えられる



# 単振り子～エネルギー



一般的な極座標表示 (加速度)

$$a_r = \left[ \frac{d^2 r}{dt^2} - r \left( \frac{d\theta}{dt} \right)^2 \right]$$

$$a_\theta = \left[ 2 \frac{dr}{dt} \frac{d\theta}{dt} + r \frac{d^2 \theta}{dt^2} \right]$$

運動方程式

$$ma_r = mg \cos \theta - S$$

$$ma_\theta = -mg \sin \theta$$

$a_r, a_\theta$   
に代入



$$m \left[ \frac{d^2 r}{dt^2} - r \left( \frac{d\theta}{dt} \right)^2 \right] = mg \cos \theta - S$$

$$m \left[ 2 \frac{dr}{dt} \frac{d\theta}{dt} + r \frac{d^2 \theta}{dt^2} \right] = -mg \sin \theta$$

# 単振り子～エネルギー

運動方程式の  $\theta$  方向の式に着目

$$m \left[ 2 \frac{dr}{dt} \frac{d\theta}{dt} + r \frac{d^2\theta}{dt^2} \right] = -mg \sin \theta$$

糸の長さは  $r = l$  (一定) なので  $\frac{dr}{dt} = 0$

$$ml \frac{d^2\theta}{dt^2} = -mg \sin \theta$$

さらに、極座標表示において  $\theta$  方向の速度は一般的に

$$v_{\theta} = r \frac{d\theta}{dt}$$

であるから

$$\frac{d\theta}{dt} = \frac{v_{\theta}}{l}$$

$$\frac{d^2\theta}{dt^2} = \frac{1}{l} \frac{dv_{\theta}}{dt}$$

と表される。

一般的な極座標表示 (速度)

$$v_r = \frac{dr}{dt} \quad v_{\theta} = r \frac{d\theta}{dt}$$

# 単振り子～エネルギー

ここで両辺に  $v_\theta = l \frac{d\theta}{dt}$  をかけると

$$ml \frac{d^2\theta}{dt^2} v_\theta = -mg \sin \theta l \frac{d\theta}{dt}$$

$$ml \frac{1}{l} \frac{dv_\theta}{dt} v_\theta = -mgl \sin \theta \frac{d\theta}{dt}$$

$$mv_\theta \frac{dv_\theta}{dt} = -mgl \sin \theta \frac{d\theta}{dt}$$

$$\frac{d}{dt} \left( \frac{1}{2} mv_\theta^2 \right) = \frac{d}{dt} (mgl \cos \theta)$$

$$\frac{d}{dt} \left( \frac{1}{2} mv_\theta^2 - mgl \cos \theta \right) = 0$$

となる。

代入

$$\frac{d^2\theta}{dt^2} = \frac{1}{l} \frac{dv_\theta}{dt}$$

# 単振り子～エネルギー

従って、この運動においてエネルギーが保存することがわかる。

$$\frac{d}{dt} \left[ \frac{1}{2} m v_{\theta}^2 + (-mgl \cos \theta) \right] = 0$$

運動エネルギー

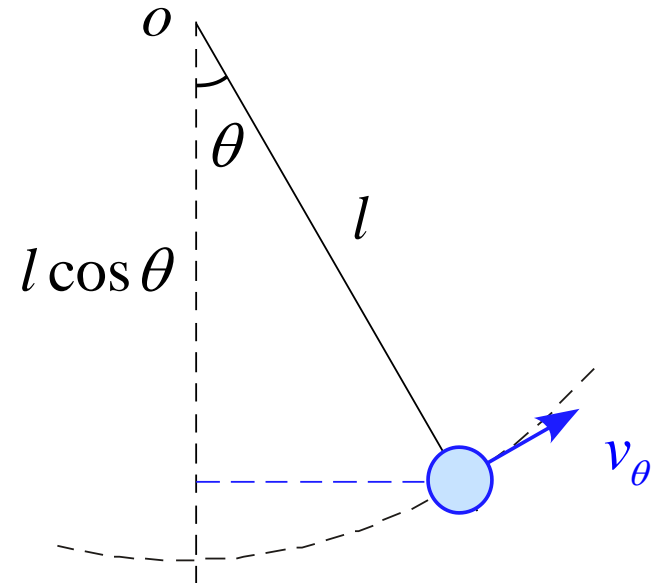
位置エネルギー

ここで、この式において、最下点を基準にするため  $mgl$  を加えると

$$\frac{d}{dt} \left[ \frac{1}{2} m v_{\theta}^2 + mgl - mgl \cos \theta \right] = 0$$

$$\frac{d}{dt} \left[ \frac{1}{2} m v_{\theta}^2 + mgl (1 - \cos \theta) \right] = 0$$

と表される。



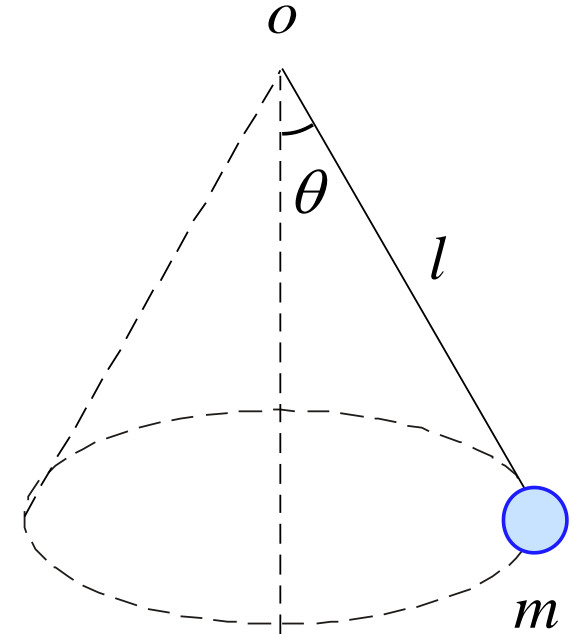
# 円運動～例題

## 例題

図のような円錐振り子のモデルを考える。

糸の長さは  $l$ 、物体の質量は  $m$  である。

物体は水平面内で円運動していて、糸と鉛直線のなす角は  $\theta$  であるとする。以下の問いに答えよ。



1. 水平面に垂直な軸を取り、運動方程式を記述せよ。
2.  $r$  方向、 $\theta$  方向の加速度を  $a_r, a_\theta$  としたとき、それぞれの方向の運動方程式を記述せよ。
3. 一般的に、平面極座標において

$$a_r = \frac{d^2 r}{dt^2} - r \left( \frac{d\theta}{dt} \right)^2 \quad a_\theta = 2 \frac{dr}{dt} \frac{d\theta}{dt} + r \frac{d^2 \theta}{dt^2}$$

と表すことができる。

糸の張力  $S$ 、物体の速さ  $v$ 、回転の周期  $T$  を求めよ。

# 円運動～例題

## 例題

図のような円錐振り子のモデルを考える。

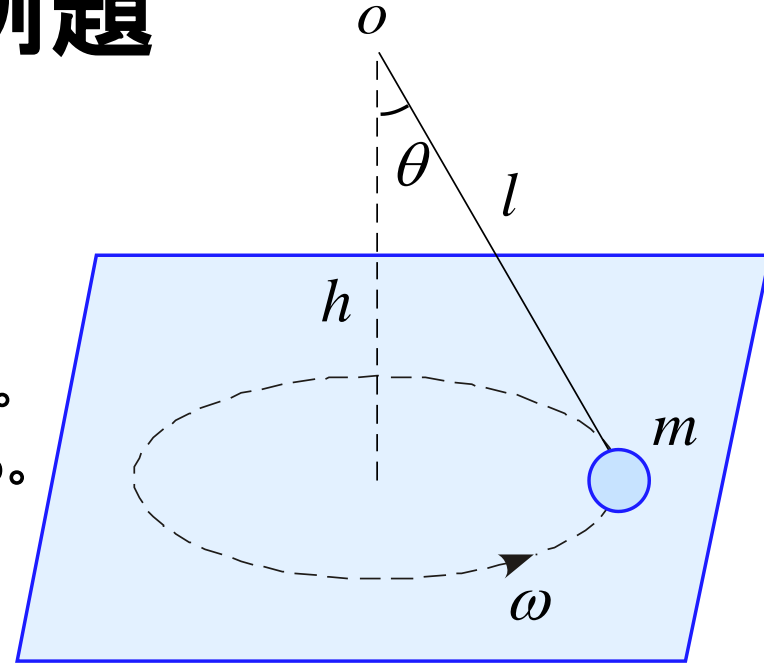
糸の長さは  $l$ 、物体の質量は  $m$  である。

物体は水平面上で角速度  $\omega$  の円運動している。

糸は水平面から高さ  $h$  の地点に設置されている。

水平面は滑らかで摩擦は無視できるとする。

以下の問いに答えよ。



1. 水平面に垂直な軸を取り、運動方程式を記述せよ。
2.  $r$  方向、 $\theta$  方向の加速度を  $a_r, a_\theta$  としたとき、それぞれの方向の運動方程式を記述せよ。
3. 糸の張力  $S$ 、水平面からの垂直抗力  $N$  を求めよ。
4. 角速度  $\omega$  が  $\omega_0$  を超えると水平面から離れる。 $\omega_0$  を求めよ。

# 円運動～例題

## 例題

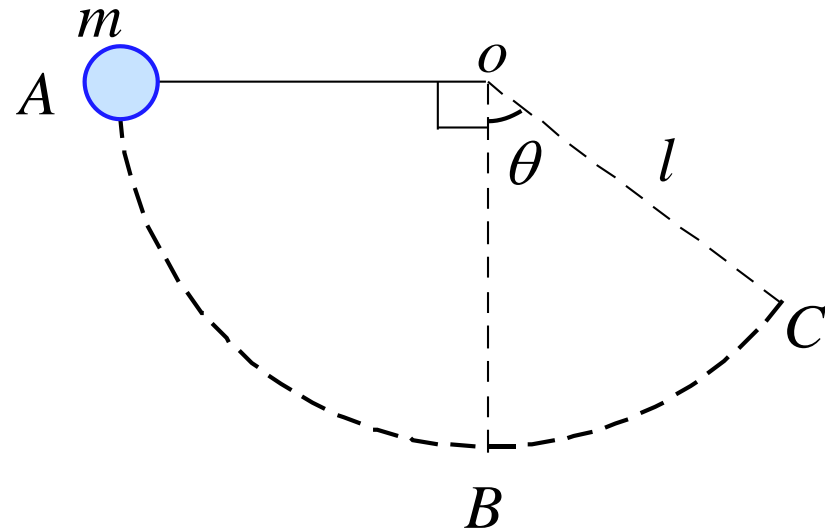
図のような円運動のモデルを考える。

糸の長さは  $l$ 、物体の質量は  $m$  である。

物体を水平の状態にして放し、円運動する。

糸と鉛直線のなす角を  $\theta$  であるとする。

以下の問いに答えよ。



1.  $r$  方向、 $\theta$  方向の加速度を  $a_r, a_\theta$  としたとき、それぞれの方向の運動方程式を記述せよ。
2. 最下点  $B$  での糸の張力  $T_B$  を求めよ。
3. 点  $C$  での糸の張力  $T_C$  を求めよ。

# 円運動～例題

## 例題

図のような円運動のモデルを考える。

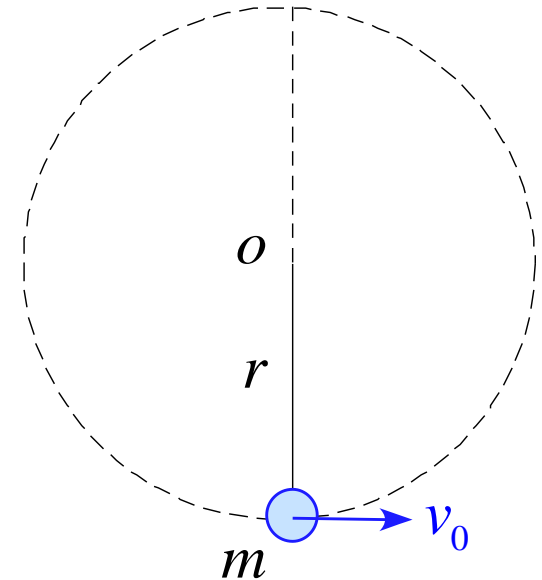
糸の長さは  $r$ 、物体の質量は  $m$  である。

物体を水平の状態にして放し、円運動する。

糸と鉛直線のなす角を  $\theta$  であるとする。

最下点で初速  $v_0$  を与えたとき

以下の問いに答えよ。



1.  $r$  方向、 $\theta$  方向の加速度を  $a_r, a_\theta$  としたとき、  
それぞれの方向の運動方程式を記述せよ。
2. 物体が1回転するために必要な初速  $v_0$  の条件を求めよ。